

て、眞宗東派に屬する。もと來應寺と稱したが、明和二年今の寺號に改めたとある。

**センコウジ** 善興寺 中宮八院の一つで、源平盛衰記には北四ヶ寺の一つとしてある。

越登賀三州志に、善興寺は俗本に善光寺に作るとし、堀麥水の三州奇談に、善光寺は寺跡のみで、村名を岩淵といふと記して居る。岩淵は能美郡輕海村の隣邑である。

**センコウジザカ** 善光寺坂 金澤上野町八幡社の邊から村落へ通ふ道路である。古へ此の附近に善光寺といふ寺があつたから坂名に呼んだものであらう。

**センコウジシン** 専光寺新 石川郡大野庄に屬する部落。

**センコウジマ** 専光寺前 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎敷許附に専光寺前と載せてあり、専光寺の前通りをいうた。三箇屋版の六用集には、専光寺を安江木町としてゐる。今は田丸町に屬する。

**センコウジヤマ** 善光寺山 鳳至郡道下に在つて善光寺森ともいふ。もと善光寺の在つた所と傳へる。文政十一年經塚を發掘したことがある。

**センコウバ** 線香場 金澤小立野がめ坂の傍なる小路の奥で、辰巳用水の餘水を以て水車を仕掛け、線香を製造した所である。文化三年初春のちよんがれに、去年中に起つた七不思議のことを述べて、『京から職人男女が如月、佛法繁昌線香の新製、車を辰巳の御用水も、けふを杉葉も佛の御慈恵』とあるから、この線香場が文化二年二月に初つたことを知られる。又舊記に、『當四月頃より町會所の仕入方御普請に而、小立野龜坂に線香御仕入方

水車白元出來。同せん香製捌所淺野川川除町に出來』とも見える。

**センゴク** 千石 羽咋郡邑知院に屬する部落。能登名跡志に『一里山奥に千石山と云に大寺有りしとて、伽藍の礎あり。此所に大なる像の多門天あり、運慶の作にて堂許あり。是を千石山といふは、往古大豆一本に千石賣りし故名とすといへり。此所より水見へ越ゆるに五里有』と記する。

**センゴクジヨウ** 千石城 羽咋郡千石の切石坂に在つて、里人は之を城山と呼んで居る。越登賀三州志故墟考に『千石村館跡在邑知院千石村領、遺跡詳かならず。館主無傳。里人唯城山と呼耳』とある。

**センゴクタニ** 千石谷 河北郡五ヶ庄の南千石・北千石・琴・琴坂・上平・中尾・浦下松根を千石谷七ヶ村といふ。

**センゴクヒコスケ** 千石彦助 ↓ヨシノヒコスケ 吉野彦助。

**センゴクマサチカ** 仙石政慎 通稱要人。延享元年父安左衛門方英の遺知三百石を襲ぎ、大小將に班し、御膳奉行・大小將番頭に歴任したが、明和元年十一月七日江戸中屋敷近火の際前田重教の先乘を勤め、土井大炊頭邸の附近で頓死した。時に三十七歳。

**センゴクマサモリ** 仙石政盛 通稱勝左衛門。兵部大輔忠政の二男。萬治元年前田綱紀に仕へて二千五百石を受け、人持組に列し、定火消・魚津郡代を經、定火消に再任し、延寶元年六月廿六日歿。子孫世々藩に仕へる。  
**センゴクマチ** 仙石町 金澤の町名で、或は千石町とも書いた。此の町名の由來は詳かでないが、三藩開封に、寛永八年四月金澤火

災の時千石町堂形と見えるから、往昔は後に堂形前と稱した地へかけて千石町と呼んだのであらう。

**センサイジ** 善西寺 羽咋郡上河合に在つて、眞宗東派に屬する。

**センサイダニ** 千歳谷 白山記に白山の翠の池の事を言つた次に、『池西有深谷。雪積未會消滅。是名千歳谷』と見え、金子有斐の白山史には、『千歳谷。宿雪三四町。自古昔不消釋、故有千歳之名』といひ、白嶽圖解には『千歳池は池とも見えす。三四町程雪の消えたる所あり。上を往來する道あり。此の處の地勢を見るに、大御前の尾先と、越南知(大汝)の尾先と打合ふ處にて、自然と谷合深く切れたる處へ、雪積みて平地と成りたるやうに見ゆ。雪の下に池のあるなしは知るべからず。東の方寶藏の下より千歳池の水口までは八九町も有るべし。平泉寺山廻りの俗

の話を聞くに、往來の西の方千歳池の水口の方より下りて見れば甚嶮峻なり。十町下りて千歳池の水口の處を横より見るに、雪の缺口十丈許見ゆ。其下に大なる雪の洞穴ありて、水を噴出すこと瀧の如し。其響き地に發ふといふ。然れば雪の下に池有りといふべし』とある。千歳池を世人千蛇が池といふは誤であらうといはれ、之より發する川は即ち湯ヶ谷川である。

**センジノミヤ** 禪師宮 白山記に『禪師宮、本地地蔵、寶殿拜殿。』と見え、白山宮莊嚴講中記録に『建長四年十二月七日未刻、禪師宮御寶殿並拜殿燒失事。』なども見える。この宮のことは白山比咩神社主建部氏の傳書に『禪師宮ハ一名山王社、祭神日吉大山咋命

也。』といひ、又その社地に就いては同書に、『禪師宮の舊社地は、石川郡三宮村の地内にて、本宮比咩神社より西方十町許を隔て、東方の山の尾上なり。今松杉の老樹生茂り、邑民共此の地をげ山の神と呼べり。又一説には、山の神と稱せし社は三宮村の東南なる山尾に在り。社殿朽ちて破壊せし故本宮比咩神社の相殿とす。今に一尺五寸許の衣冠の神像同殿に鎮座す。禪師の宮は社殿破壊の後、本宮比咩神社の北方に小祠を造立して爰に祀り來る處、明治十一年破壞するに依つて、神像三體をば荒御前社の相殿とす』と記してある。

**センジヤガイケ** 千蛇ヶ池 ↓センサイダニ 千歳谷。

**センジュイン** 千手院 白山禪頂私記の奥書に、『右此抄者、賀州河北郡井家庄領家方福久村兼運之氏寺千手院に住し、獨り北隔に向て日を送り、徒に兩日に眠て時を移す云々。永正五年戊辰七月廿三日權大僧都勝慶六十歳。』とある。この千手院は石川郡鶴來町金劍宮の北方にあり、後に畠地と成つて千手院屋敷と稱した所にあつたものである。

**センジュイン** 千手院 金澤野町に在つて、長久山と號し、眞言宗に屬する。六用集には千手院福水寺に作る。寺記に、天長年中僧衆愛清水觀音を祀り、千手院の勅額を賜はり、又飛鶴權現をも祀つた。慶長五年前田利長命じて金澤修理谷に移らしめ、後更に今の野町に轉じたとある。天長創建のことは別問ととして、飛鶴權現を祭る千手院といふより、石川郡鶴來に在つたもの、後であることを思はしめる。白山本宮長吏白光院及び神主建部氏はこの寺の檀徒であつた。